

2021年度 佐久長聖中学 自己評価

学校教育目標	中・長期的目標	今年度の重点目標
1. 礼節を重んじ、忍耐強く、誠実な人材の育成を図る。 2. 一人ひとりの個性を尊重し、授業・クラブ活動・館(寮)生活を通して豊かな教養・感性・心身の健康を身につける。	1. 積極的、自主的な態度を養う。 2. 一人ひとりが文武両道を実現できる環境を整える。 3. 校外から理解・支援される教育活動を展開する。 4. 世界で活躍できる人材が育つ環境を整える。	1. 魅力ある授業が生徒に提供できるための教科指導の研鑽に努める。 2. 生徒の進路実現に向けて、進路指導体制の発展に努める。 3. 生徒との前向きな対話のある生活指導・学級運営を行う。 4. 心身ともに健康で明るい学校生活をが送れるよう、生徒の人権を尊重し安心安全な学校づくりを進める。 5. 学校の特色をアピールできるように積極的に情報発信を行う。

評価・・・A:十分 B:概ね十分 C:やや不十分 D:不十分

評価項目	評価の観点	評価	具体的取組状況・成果	課題・問題点	
1	学習指導	大学入試改革に対応した具体的な取り組みができたか。	C	■自分の考えを伝える力を高めようとする取り組みができています。■大学共通テストの傾向を意識したカリキュラム編成、授業構成ができた。■記述や発表など、表現する機会を多くとるようにしている。■思考力が必要な発問を心掛けた。■調査で記述を主とする問題にした結果、書こうとする積極的な姿勢が見られるようになった。	■複数資料からの読み取り。本文から根拠を探し記述する時に、抜き出しから一般化する練習。■教科の目標に不明確な点があるので、職員間で共通認識できると良いと思う。■思考力が必要な課題が、まだ基礎力が不十分な生徒には、やや取り組みにくかったのが難易度を見極めるか、個々への対応に必要があった。
		アクティブラーニング(AL)・ICT機器活用等の授業改善をしたか。	A	■解答を導く過程を生徒同士で共有する機会を多く作った。■生徒が自ら答えを求める形の授業を行った。ロイノートを活用し課題学習につなげた。■PC・タブレット・プロジェクターなど適宜効果的に使用できている。■ロイノートを週末課題や授業中に使用した。■発言を多く引き出して自分で考える機会を増やしている。	■毎時間のPC、プロジェクターの持ち運びは大変である。改善が必要かと考える。■個別の思考や試行はできて、クラス全体に拡げる活動にはなかなかつながらないのが現状である。■各教室にプロジェクターを置いて欲しい。短い休み時間に、プロジェクターとPCを繋ぎ、デスクをセットするには時間が足りない。
		中高一貫教育の特性を生かした指導や教育課程の見直しを行ったか。	A	■高校進学を見据えた学習指導ができています。■高校までに身につけるべき文法事項を教科内で確認できた。■中学校3年分を2年間で終わらせるペース配分で、理解度も固りながら授業を進められている。■取り扱い内容を検討し、昨年度以上に、入試の傾向や一貫課程に適した内容にすることにできた。	■上位層に対する指導や与える課題と、下位層への指導、補習について、引き続き検討・実施。■今後も、各学年の段階で生徒が何を習得すべきかの見直しを継続しながら、指導に当たる必要がある。■実践してみても初めて、新たな問題は出てくる。より実践的な内容になるよう研究を重ねていきたい。
2	進路指導	計画的・戦略的に組織的な進路指導ができたか。	B	■高校3年で結果を出すために、中学では何を実施しておくべきなのかを検討。学年会で模試結果を分析。■目標が明確で学習に対する意欲が高い生徒は、進んで活動に取り組むことができています。■高校3年生やその先のビジョンを常に意識しながら指導している。■授業を通して、大学入試を見据えることを意識させている。	■大学選択の話題を多くするようになったが、そこまでの長期的な学習計画などはまだできていない。■進路について不明確で学習に対して消極的な生徒に対して、どうアプローチしていくか。■将来の夢がまだ決められない生徒が多いので継続した指導が必要である。■中高の接続を強固なものにする必要があると感じる。
		保護者と連携した個に応じた進路指導ができたか。	C	■面談により、保護者・生徒の進路希望を把握し、情報を共有した。■担任を中心に関係各所で適切に対応できている。■関わった生徒の保護者には、大学入試について、今後の見通しを説明したり、相談に乗ることができた。■保護者懇談会を通して、将来のビジョン等について家庭での話題作りを促すことができた。	■授業が先取りで進んでいることもあり、上手く学習ができていない生徒の保護者の期待に応えきれない。■本人の学力と希望進路のギャップのある生徒が増えていると感じる。■保護者への進路講話ができれば良いと思う。■野球部の生徒に対して、面談を実施したが、保護者との連携は少なかった。
		生徒の自己啓発につながるキャリア教育であったか。	B	■進路目標を明確にするとともに自己を見つめる活動ができた。■各学年特色のある活動に取り組めた。■体験学習、自分発見、探究活動など充実している。■クエストエデュケーションで企業の与えるミッションに触れることで、「職業」というもののあり方、社会との関係性に触れることができた。	■生徒の振り返りを継続して取り上げていくとともに、広い視野を持てるような話題を与えていく。■学校・学年の柱となる活動があると取り組みやすい。■職業体験の代わりとして、様々な職業の方の講話や社会見学の機会を持たせたい。■時代の流れに適した内容に段階的に変えていく必要があるのではないか。
3	生徒指導	いじめや暴力のない安全な学校生活を送るための啓発活動ができたか。	A	■啓発のための呼びかけやトラブル後の対応を丁寧に行っている。■担任団で連携し学年全体で対処することができた。■1年生に対して性教育にプラスする形で集団生活のマナーやモラル、いじめについての講話を行った。■暴力はもちろん大きないじめはほとんどないと思う。■自分自身の話し方から気をつけている。	■強引な指導ではなく、話し合いを重視したが、理解しているかは疑問が残る。継続的な指導が必要である。■からかひや陰口には注意していきたい。小さなものでも共有し、早めに解決するべきである。■日頃から館生とのコミュニケーションを密にし、変化や異変に気づけるよう観察していく必要がある。
		体罰や暴言のない安心な学校づくりができたか。	A	■生徒同士や生徒と職員間で、相手への配慮を心掛けて行動することができている。■生徒にとって安心・安全な学校になっていると思う。■生徒からの情報や気づいたことを上司や担当者に報告している。■問題ないと思う。■指導、注意の際の言動には注意を払い、分かりやすく、腹落ちするアドバイス・助言を実施。	■今後も相手に対する言動については、適切なものかどうか意識して見直しを継続していく必要がある。■体罰や暴言は論外だが、厳しさと緩さのバランスや規律を正すには、など生徒対応のスキル向上。■引き続き、館生が安心できる環境づくりに努めていく。また、職員の言動に関しても、相互にチェックしていく必要がある。
		校内外での安全・トラブル(SNS含む)に注意できているか。	B	■生徒の異変や相談に注視し、トラブルがある場合は適宜聞き取りや指導を適切に行っている。■聖朋館内の不具合箇所の整備、スマホの適正管理・使用に努めており、大きな事故・トラブル等はない。■休み時間の生徒観察と朝・放課後の見回り。■SHRで重ねて注意するとともに、LHRで話し合った。	■生徒とのコミュニケーションを大切に、情報をキャッチすることが肝心。■トラブル発生時の有効な手立て、適切な対処方法についての学びや振り返りを続けていく。■学習への集中力が安全な生活につながることを意識づけている。■日頃の観察を欠かさず、職員間で情報を密にしていく必要がある。
4	保護者連携 地域連携	ホームページ・Classiなどで積極的に学校情報の発信ができたか。	A	■必要な情報について、適宜発信できている。■Classiの使用については個人的には有効に活用できたと思う。■聖朋館通信を通じて、旬な情報を定期的に発信。館の生活、運用などに、ご理解・ご協力をいただいている。■長聖通信、学年通信、学級通信などを配信し、家庭との連携に努めている。	■一般的な情報の羅列ではなく、「読んでもらえる」「読みたいくなる」通信・お便りを目指していく。■保護者の方が関心ある情報や時節に応じた情報をピックアップし、タイムリーに発信していく必要がある。■SNSを活用した方法を模索していくべき。具体的にはTwitterやInstagramなども活用し、情報発信を行いたいと考える。
		保護者や外部からの声に対してきちんと対応・返答できたか。	A	■保護者の要望に応じて、補習や個別対応を実施することができた。■保護者や外部から質問・意見・要望が上がれば、回答を確実にすることができている。■関わった事項については、なるべく丁寧な対応を行った。■個別に寄せられた声に対して確実に対応できた。■素早く対応できている。	■まず、要件をしっかりと聞き、保護者の心配を少しでも緩和すること。そして、安心してもらうこと。■生徒会で地域貢献ができるか考えていきたい。■保護者が声をかけやすい環境づくりや、外部の声をこちらから聞きに行くような姿勢が不足している。■後回し、先送りしないよう、引き続き、初動を大切にしたい。
		説明会・オープンスクール・学校訪問など積極的な募集活動ができたか。	B	■体験授業はコロナ過で動画配信となったが、分かりやすい動画になるよう内容的にも、見やすさも相当考えた。■明るい対応を常に心掛けている。■説明会では、楽しくアカデミックな授業ができた。■友人や知人に本校の特色を紹介。公立と変わりなく、身近な学校として感じていただいている。	■周りの先生・事務方に任せてしまっている。■本校の魅力、特色をよりアピールできるよう、学校全体の情報を収集・把握していく必要がある。■広報的な仕事をもう少し強化した方がよいと感じる。特に、地元を中心とした受験生の確保は大きな課題ではないかと思う。■コロナ禍での募集活動のあり方の検討。